

【ポスター発表】

大学における学童保育職員養成の可能性に関する研究

—学童保育現場との連携・協働の実習指導システムの検討—

○ 新潟県立大学 植木 信一 (2922)

キーワード：養成課程、学童保育実習、実習指導者

1. 研究目的

本研究では、学童保育現場の実習指導者と大学教員とが連携・協働した実習指導システムの比較検討をとおして、大学における学童保育職員養成の可能性について明らかにすることを目的とする。具体的には、専門性の高い実習指導システムの構築のために必要な要素について提起する。

なお、本研究は、JSPS 科学研究費 JP18H01002「非認知能力を育成する放課後支援人材養成カリキュラム開発のための基礎的研究」による調査研究の成果の一部である。

2. 研究の視点および方法

本研究では、現在行われている学童保育職員養成の取り組みとして、①放課後児童支援員認定資格研修、②児童厚生員養成課程、③ストックホルム大学養成課程の三者の実習指導カリキュラムを比較・分析する。なお、各養成課程に関する情報は文献資料によって収集した。また、ストックホルム大学養成課程については、ストックホルム大学青少年学科が主催した公開セミナー（2019年2月）にゲスト参加して情報収集した。

3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会研究倫理規程に基づき、収集した情報の匿名性および名誉・プライバシーについて配慮し研究を実施した。また、情報収集を実施するにあたり、必要に応じて研究の趣旨について説明を行い、同意を得て実施した。

4. 研究結果

1) 大学における学童保育実習の位置づけ

公的資格を取得するための放課後児童支援員認定資格研修は、大学における養成課程がないため実習がない。児童厚生員養成課程における実習のうち「児童館実習Ⅰ」は、保育

実習指導システムの比較

	大学における 学童保育実習	実習指導者の 要件	実習指導者会議 三者会議
放課後児童支援員認定資格研修	×	×	×
児童厚生員養成課程	△	△	×
ストックホルム大学養成課程	○	○	○

士養成における保育実習（施設実習）で代替できることになっているため、児童厚生員資格取得者のなかには、保育実習（施設実習）だけで完了することになり、放課後児童クラブでの実習を行わないこともあり得る。ストックホルム大学の養成課程では、3年間で20週間の実習が実施されており、養成課程における実習の位置づけが重視されている。

2) 実習指導者の要件

放課後児童支援員認定資格研修は、現場実習がないため実習指導者の配置もない。児童厚生員養成課程には、実習指導者の要件が定められている。ただし、実習指導者としての訓練を受けることは想定されていない。ストックホルム大学養成課程における実習指導者は、大学教員と協働して実習指導に加えて実習評価も行う。そのため、大学は、実習指導者の能力の向上のために、常時フォローアップする仕組みを持っている。

3) 実習指導者会議および三者会議

ストックホルム大学は、大学教員と学童保育指導員の連携・協働関係が構築され、両者の協働による実習指導が進められている。実習指導者は、実習中の実習指導者会議や実習後の三者会議に参加することによって、大学教員からスーパービジョンを受けることができ、結果的に学童保育職員としてのスキルアップにもつながっている。

5. 考察

専門性の高い実習指導システムを構築するためには、①放課後児童クラブでの実習の実施、②実習指導者の要件の設定、③実習指導者会議および三者会議の組織化、という3つの要素が必要であること、そして、こうした実習では現場職員が実習指導者になることで実践者としての専門性をも高められることが明らかとなった。このような専門性の高い実習指導システムを実現するために検討すべきことを3点提起する。

1) 実習で育成する学童保育職員の専門性を明らかにすること

実習指導システムを構築する際に明らかにされなければならないのは、その養成課程で育成される資質・能力であり、養成課程を構成する各授業科目の目標と内容である。しかし、これらを示すためには、そもそも学童保育職員の本来の職務内容は何であり、どのような育成支援が求められているのかを明らかにする必要がある。

2) 大学教員による実習指導者の育成

現場にいれば誰でも実習指導者になれるわけではない。大学教員のかかわりによって、実習指導者に求められる専門性の確保と学生指導力を育成する仕組みをつくる必要がある。

3) 実習指導者をスーパービジョンできる大学教員の育成

大学教員が実習指導者をスーパービジョンし、実習指導者としての学生指導力の向上を図るためには、実習指導を現場の実習指導者に一任するのではなく、実習指導者会議および三者会議を組織し、大学教員は協働して実習指導に当たるとともに、継続的に実習指導者をつなぎ、スーパービジョンすることが求められる。